

プレスリリース
報道関係者各位

笹川ハンセン病イニシアチブ

2022年9月2日

エチオピアのハンセン病回復者の 尊厳と希望の象徴、新本部ビルが完成

笹川ハンセン病イニシアチブ（所在地：東京都港区）が、2019年度より建設費を支援しているエチオピアハンセン病回復者協会（以下、ENAPAL）の新本部ビルが完成しました。2022年9月2日（金）に、エチオピアの首都、アディスアベバにて開所式が行われました。ビルは、エチオピア政府から寄付された土地に建つ5階建てです。

開所式には、エチオピアのエルゴゲ・テスファイエ女性・社会問題大臣、リア・タデッセ保健大臣、笹川陽平 WHO ハンセン病制圧大使などが出席し、エチオピアのハンセン病制圧に向けた取り組みが紹介されました。今回、エチオピア政府より閣僚2名が出席したことは、エチオピア国内でのこのプロジェクトの重要性を示すこととなりました。



エルゴゲ・テスファイエ女性・社会問題大臣（左）、笹川陽平 WHO ハンセン病制圧大使（中央）、リア・タデッセ保健大臣（右）

お問い合わせ先：笹川保健財団 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5階

P1

笹川ハンセン病イニシアチブ広報担当：三賀知恵美 電話:070-4509-4213 E-mail: shf_hd_pr@shf.or.jp

エチオピアは、2020年に2,500人を超えるハンセン病患者が新たに発見され、WHOがハンセン病対策優先国と指定している23カ国のひとつです。ENAPALは1996年に設立され、エチオピアのハンセン病患者・回復者およびその家族の社会参画と機会均等を実現するために活動している、2万人以上の会員を擁する地域密着型の組織です。

今回のプロジェクトは、ENAPALが、2011年頃にエチオピア政府に新本部用地の提供の打診をしたことに端を発し、2017年に、1,500平方メートルの土地を無償で譲り受けることができました。これはエチオピア国内のNGOとして初めての事例となりました。

その後、2018年7月にエチオピアを訪問した笹川陽平WHOハンセン病制圧大使は、ENAPALからプロジェクトの支援依頼を受け、笹川保健財団が慎重に調査した結果、2019年より建設費の支援をすることとなりました。

ENAPALは、完成したビルを、将来的には、協会本部として使用する予定ですが、まずは教育機関に校舎として賃貸し、安定した収入源を確保する考えです。これまでENAPALの活動は、笹川保健財団をはじめとするハンセン病制圧の分野で活動する国際NGOの支援によって支えられてきました。しかし、今回の新本部ビルの完成により、賃貸収入で資金基盤を安定させることで、持続的かつ独立して活動できる組織を目指すことが可能となりました。それは、長い間社会から疎外されてきたハンセン病患者、回復者やその家族にとって尊厳と希望の象徴となりました。さらに、このビジネスモデルは、他国のハンセン病制圧活動団体の活動モデルとなることとして期待されます。

式典の前日には、笹川ハンセン病イニシアチブが2021年に開始した、コロナ禍でもハンセン病問題を見過ごしてはいけないというメッセージを発信するキャンペーン「Don't Forget Leprosy」をテーマにシンポジウムが開催され、政府関係者やNGO、ハンセン病回復者関係者が参加しました。

笹川ハンセン病イニシアチブについて

笹川ハンセン病イニシアチブは、笹川保健財団および日本財団と笹川陽平WHOハンセン病制圧大使がハンセン病のない世界の実現を目指す戦略的アライアンスです。笹川陽平WHOハンセン病制圧大使および笹川陽平が会長を務める日本財団（1962年設立）と、ハンセン病対策に特化した財団として設立された笹川保健財団（1974年設立）は、45年以上にわたり世界各地でハンセン病対策に取り組んでいます。「医療面」では、1975年以降、WHOを通じて世界各国政府によるハンセン病対策を支援しており、その累計は約2億ドルにのぼります。また、「社会面」については、日本政府などと連携し、国連総会における「ハンセン病患者・回復者・その家族らに対する差別撤廃決議」の採択（2010年）や、国連人権理事会を通じた国連ハンセン病差別撤廃特別報告者の設置（2017年）に大きく貢献しています。

ハンセン病について

ハンセン病は、らい菌が主に皮膚や神経を侵す慢性の感染症です。未だ世界では年間 20 万人余りの新規患者数が報告されています。治療法が確立された現代では完治する病気ですが、治療の開始が遅れたり、治療を中断したりすると、抹消神経が障害を受け、手足・顔面の知覚麻痺や筋力低下などの身体的な障害につながる場合があります。また、ハンセン病は完治する病気にも関わらず、多くの回復者およびその家族が、ハンセン病に対する社会の根強い差別や偏見に今なお苦しんでいます。